

# 平成 29 年度 学校法人 三幸学園 調理・製菓専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

## 1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 平成 29 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

#### ・人間性を高める教育の実践

「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

例として「礼儀正しく自ら挨拶をする」「専門的な「技術」と「知識」を身につける」「整理・整頓と常に清潔に学校を保つ」といった基本的なことを継続的に指導することを実践している。

#### ・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各学科で重点教育項目を作成し、全教職員への目合わせを行うほか、学科会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるよう計画している。そのための考え方として「業界で一目置かれる存在になるための土台作り」をふまえている

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

学園としての理念・学校目標は明確なものになっており、生徒・保護者への周知は行われているが、業界のニーズとの整合性を理解させる上で、共有に不十分な部分が見える。

#### ② 今後の改善方策

教職員については会議、生徒についてはホームルームや日々の指導の中で、「常に意識し継続する」ことを理解させ、「社会人育成の場としての専門学校がある」をふまえた共有を浸透させる。

#### ③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、調理製菓分野におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員への浸透を実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学校の理念や育成人材像が明確に定められていて判りやすい
- ・社会人育成の場として、マナー指導がしっかりしていることは良い
- ・業界との連携は十分に取れているように思われるが、更に密に連携して教育の質を高められると良い
- ・学校を閉鎖的な空間にせず、学生と社会とを繋ぐ架け橋の役割を今後も果たし続けて欲しい

## (2). 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

専門職に特化した教員が多く、全体的な視野で学校運営を考えている教員を強化する。

### ② 今後の改善方策

総合職に必要な知識の習得機会(自己啓発含む)を設け、常に情報共有を行い、全体的な視野を養う機会を増やす。

業務フローを再点検し、自動化できる業務に関しては情報化し、業務の効率化を図る。

### ③ 特記事項

定期的に全教職員に向けて全体会議を実施。また年3回全講師会を実施し、運営方針の浸透と共に、情報共有を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適切に学校運営がされていると思います。引き続き、適切な運営を行なって欲しい
- ・年度毎の運営方針が明確に示されていて分かりやすい
- ・方針の徹底が会議等で全職員に行われている点が評価できる
- ・業務の効率化を図り、教員の皆さんが教育に出来る限り専念できる環境を作って欲しい

### (3). 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

外部との連携や教職員の資質向上に関する体制構築。  
授業及び実習先評価の精度向上と教育への反映。

#### ② 今後の改善方策

教職員の校務状況を精査しながら外部との連携に取り組める環境を整備。  
情報の共有を会議や研修で行い、自己啓発に努めていく。  
外部からの評価がわかる環境整備の実施。  
会議を踏まえた評価基準の共有と生徒への対応を迅速に行う。

#### ③ 特記事項

産学連携の1つとして、「食の第6次産業プロデューサー」講座を継続実施。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念から方針に至るまで明文化されていて判りやすい
- ・アクティブラーニングの導入など、教育手法の向上にも力を入れているのが評価できる
- ・産学連携を通じて、カリキュラムの編成や教育手法の開発を行なっているのが評価できる
- ・講師の質、授業の質を高めるための取り組みが大切だと考えている
- ・カリキュラム、実習、資格取得の指導体制など、より体系的に進めて欲しい

#### (4). 学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

#### ① 課題

悩みを持つ生徒の増加に伴う対応の鈍足化。

就職に対する意識・意欲低下への対応。

卒後教育の十分な還元。

#### ② 今後の改善方策

生徒面談の強化をし、個々の状況を理解する機会を増やし、対応を迅速化する。

国家試験対策講座(卒業生無料参加)を更にニーズにこたえた卒後教育を行う。

#### ③ 特記事項

29年度退学率 調理分野 4.1% 製菓分野 3.2% 合計 3.6%

29年度就職率 96.2%

28年度退学率 調理分野 2.5% 製菓分野 3.3% 合計 2.9%

28年度就職率 93%

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・退学率が低下していることは良い傾向だと思います。今後も継続してほしい。
- ・生徒のモチベーションを絞っていくことで、担任はクラス運営が容易になるので精査する必要がある。
- ・これからは退学、就職に対する意識についての課題の抽出と共有および成功事例の共有のシステムを構築する必要がある。個別対応ではなく大規模対応へのシステムをつくる必要がある。
- ・退学の理由として経済的な理由、精神疾患など職員で対応できないものもある。
- ・就職はベストマッチが最重要であり、これは就職先、職員、生徒がうまく連携がとれなければならない。この連携に失敗すると卒業生が業界へ不信感を抱くことになり、業界離職率増加につながる。連携は常に意識してほしい。

## (5). 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

卒業生へ就職支援の強化。

心理面からくる不安定な生徒への対応。（校内にスクールソーシャルワーカー設置）

### ② 今後の改善方策

・担任を含む教職員全員に生徒指導における方針を常に理解し、実行していくことを促す。

※結果を出したことに対する好評価へのアプローチと出なかったことに対するフィードバックの徹底。

### ③ 特記事項

・保護者との連携を構築するための保護者会や就職決起大会・ホームルームをふまえて生徒の目標達成に向けた環境を構築していく。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・安心して学習するための支援が実行されており評価できる

・社会ニーズの取り込みと、環境の整備は積極的に行なわれているように感じる

・担任との連携が深く、保護者参観実施は保護者に安心感を与えるので今後も続けてほしい。

## (6). 教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

校外実習に対する学生の意識向上

### ② 今後の改善方策

実習終了後の振り返りで現実と理想の中でどう自分のモチベーションを保っていくかを考えさせ、それに対するフォローを職員が意識していく。

### ③ 特記事項

外部講師を招いての講習等を増やし、連携を深めていく。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設や設備は十分整っているように見受けられ、評価できる
- ・実習先の開拓なども積極的に行なわれていて評価できる
- ・防災に対する備えも出来ているように見受けられる
- ・今後も学生数に応じて、設備を強化して欲しい

## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

### ① 課題

調理分野の定員充足。  
教育成果を積極的に発信していく。

### ② 今後の改善方策

自主練習の材料を学校が負担する方針変更に伴い、学生募集対象者にその効果を発信。

### ③ 特記事項

調理2年制のコース展開を検討

調理師科1年            48名(47名)(39名)

上級調理師科        47名(42名)(34名)

製菓パティシエ科    44名(35名)(24名)

製菓マイスター科    54名(59名)(30名)

※(無)H30、(H29)(H28)

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・募集活動は適正に行われていると感じる
- ・入学希望者が卒業時に身に付けられる成果を正しく把握できることが大切
- ・自主練習の費用を学校が持つことで、入学後の安心感を与えていることは良い
- ・学納金は妥当。奨学金制度も準備されていて評価できる



## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

#### 【委員のコメント】

・特になし

## (9). 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

自己評価で出た課題の解消に取り組めるシステムの構築不足。

### ② 今後の改善方策

情報を共有し、チームを構築して課題解消に取り組む。

また会議や掲示物等を通じて、全ての職員のコンプライアンスに対する啓蒙を継続的に図る。

### ③ 特記事項

平成25年度自己評価結果より公開を開始。

平成28年度より、コンプライアンス遵守の映像を職員全員で視聴し啓蒙。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・自己評価の公開を開始した点は評価できる

・職員の意識を高める活動を行っていることは良い

・この委員会を含め、外部の声を積極的に活用し、引き続き教育の質をより高めて欲しい

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

依頼がある際の活用は行えているが、学校からの呼びかけでは実施していない。

### ② 今後の改善方策

学校として行える地域貢献を考え、学校側からのアプローチを積極的に実施していく。

### ③ 特記事項

29年度 社会貢献

食育 大阪市生野区との連携により、小学生を対象に食育教室開催。

NPO法人 トウギャザー様 障害者の方々向けの製菓実習を実施。

地域貢献

1Fカフェを開放し、販売実習を定期的に実施。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・地域貢献・社会貢献共に良く活動されていることは評価できる
- ・この学生は、明るく、挨拶もしっかり出来る点に教育効果が表れている
- ・今後も社会性を育む上でボランティア活動などに積極的に取り組んで行って欲しい

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の卒後の受け入れ先が少ない。

② 今後の改善方策

留学生を受け入れてくれる就職先の確保に努め、体制を強化する。

③ 特記事項

海外における日本料理の調理技能認定制度認可

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・留学生の受け入れ、卒業後についても難しい部分がまだまだあるが  
しっかりと対応をしてほしい

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画は定められ実行されており、一定の評価が出ている。

昨年と同様、個々の生徒対応において教職員側のスキル不足が課題として継続している。

教職員が学校で働く上で

「どういう貢献をしているのか？」

「どういうことを目標とふまえて生徒に指導していくのか？」を明確に考え、

教育方針でもある【あきらめない教育】を実行するための教職員教育が

今後も重要と推測される。

#### 全体を通じた委員コメント

- ・情熱を持って教育に取り組まれていることを感じられる
- ・社会との連携を積極的におこなう姿勢はとても評価できる
- ・「あきらめない教育」という形で、しっかり学生と関わっていく在り方は素晴らしい
- ・今後も教育の質の向上を具現化し、より一層の発展を期待している